

# Management Club Report

Feb.2021/Vol.218

## Monthly Opinion 《強く美しい歯科医院の基本形》

先月の *Management Club Report Vol.217* は今年の研究及び活動テーマを『強く美しい歯科医院作りを目指す』とするに当り、一体、強くて美しい歯科医院とはどのようなものであり、どのような評価を得られる存在であるべきなのかということをも自分なりに問い直してみようと思い、『強く美しい歯科医院を考える』と題して考えてきたことをまとめてみました。

大変嬉しいことに、前向きな評価をいくつか頂戴しました。ある先生からは「今年の『美しさ』、壮大な目標ですね！芸術、人間、伝統などの『美しさ』は、失敗して、削いで、創造、改革そして失敗して・・・やっと『美しさ』が出来ると思っています。」

そのように寄せていただきましたが、医院経営にこれを当てはめるならば歯科医院の美しさはどうあるべきか、そのような命題を与えられたように感じました。

別の先生からは「レポートには『美しいシステム』のことで、“そういう手法を採り入れるに至るヒトの考え方や思惑には美醜の差異が存在する”とありました。開業医の歯科治療は回数が掛かることから患者には毎回評価を受けているわけで、人間を高めていくいい機会を頂いていると私は感じています。佐藤暢也先生の文面からは新渡戸稲造が思い起こされました。フィロソフィーではなく確固たるフィロソフィーですね。」

その佐藤暢也先生ご本人からは「いま、マンスリーオピニオンを読みました。読み終える最後の段で、私の著書からの引用をしていただいております、驚きと共たいへん光栄で感激いたしました。書いている言葉から乖離して、本人はたいしたことない人間なのですが…」と謙遜に満ちた感想をお寄せくださいました。

そのような嬉しい言葉に背中を押され、今月はもう少し深める意味で『強く美しい歯科医院の基本形』と題し、その具体的な姿を描いてみようと思います。

1

### 我が道を征くことで生まれる強さと美しさ

#### 患者が歯科医院に寄せる信頼感の芯

先日、患者として通院いただいている 75 歳のご婦人から次のように言われました。「今までは歯医者に行こうと思うだけで気が重くなっていたのに、先生の所は違うのです。次の予約日が待ち遠しいとまで言うては言い過ぎかもしれませんが、毎回先生や衛生士の方とお話ができることは勿論、治療中の先生と衛